No１２　下野市立石橋中学校

校長室だより

スローガン　～生徒も先生も、自ら輝く学校～

目指す学校像
『未来を、たくましく生き抜ける生徒』の育成
キーワード「自立・貢献・創造」

令和４年９月２２日（木）
発行者　田熊利光

石橋中ホームページＱＲコード→

秋季大運動会　　全校生徒の絆が「開花」

９月１７日(土)に行われた秋季大運動会は、晴天にも恵まれ、秋の爽やかな空気を感じる中、盛大に実施することができました。生徒の皆さんは、どの競技にも全力で取り組み、最高の運動会を創造することができたと思います。特に色別対抗総合優勝のピンク団の皆さんおめでとうございました。予行からの追い上げと団結力はお見事でした。

下に今年度の運動会の結果を改めてまとめました。結果や順位も大切ですが、さらに大事なことは、運動会本番までの各団の努力と、最後まで決して諦めず、励まし合い、支え合い頑張った**「仲間との絆」**であることはいうまでもありません。

今年度、黄色団は総合成績は最下位でしたが、どの団にも負けないくらい、笑顔で仲間を応援し、勝っても、負けても全力で仲間の頑張りを讃え合っている姿は、他の団の人たちも見ていたと思います。また、３年生が後輩たちを全力で応援する姿も印象的でした。このような姿が、どの団にも見られ、先生に頼らず全て自分たちで創り上げるという点が、石中生徒の**「人間力の高さ」**と、石中の**「運動会のレベルの高さ」**を表していると思います。行事の最大の目的は**「人としての成長」**です。だとしたら、勝ち負けに関係なく、全力で競技に取り組んだこと自体が、各団にとっての優勝ではないでしょうか。全ての団の**「全力に悔いなし」の精神**に感動しました。

また、皆さんは各係活動で、運動会を盛り上げたり、支えたりする役割を責任をもって果たしてくれました。このようなみなさんの**「陰の貢献」**なしに、運動会の成功もなかったと思います。準備から後片付けまで、気を利かして働いてくれる生徒が多くてとても感心しました。

このような**「仲間のために自分の力を発揮する姿勢・集団に貢献しようとする姿勢」**は、社会に出てからも必ず役立つはずです。今後の生活の中で生かしていきましょう。

総合順位・各競技の結果

順位＼競技	色別総合順位	大縄１年	大縄２年	大縄３年	縦割り選抜リレー	綱引き男子	綱引き女子	玉入れ	マスゲーム
１位	ピンク	ピンク	紫	紫	ピンク	ピンク	オレンジ	ピンク・紫	緑
２位	紫	紫	オレンジ	青	青	紫	紫		紫・オレンジ
３位	青	緑	青	ピンク	オレンジ	黄	緑	青	
４位	オレンジ	青	ピンク	オレンジ	緑	青	黄	緑	
５位	緑	オレンジ	緑	黄	紫	オレンジ	ピンク	オレンジ	
６位	黄	黄	黄	緑	黄	緑	青	黄	

学年色別対抗リレーの結果

	優勝	２位	３位	４位	５位	６位
１年生	青	黄	ピンク	オレンジ	紫	緑
２年生	ピンク	青	緑	オレンジ	黄	紫
３年生	ピンク	オレンジ	青	紫	黄	緑

「本気」は人の心を打つ！

ご来賓の下野市教育委員会学校教育課長石島先生は、途中で退席されましたが、「縦割り選抜リレーを見て、運動会で久しぶりに感動しました。生徒の皆さんが全力で走る姿に心を打たれました。生徒の皆さんにお伝えください。」と、おっしゃっていました。

石中伝統のマスゲーム

３年生が約半年もかけて頑張ってきたマスゲームは、どの団も予行より格段にレベルアップしていました。各団それぞれに良さがありました。今年度はドローンで、上空から隊列変化を撮影したので、皆さんの動きがよく分かりました。また、３年生のマスゲーム長の皆さんが書いた「隊形変化の説明書」も本番前日に何度も読みました。その説明を読んでいるだけで気持ちが伝わってきました。本番はどの団も素晴らしく、点数の差はほとんどありませんでした。それでも**僅差を分けたのは、まさに「画竜点睛」＝「最後の仕上げ」の部分**。特に最優秀賞の緑団は、最後の決めポーズで、他のチームから「おーすごい！かっこいい！」という声が上がりました。そのような見せ方を細部まで磨きをかけたことが高得点につながったと思います。

２年生の皆さんは、来年のマスゲームを創作するときの参考にしてください。

実行委員長・色別総合優勝・マスゲーム・各競技優勝団代表者の言葉(敬称略)

運動会の実行委員・生徒会長

運動会は「全校生徒が輝く場」にしたい、運動会が苦手な人も、怪我などで競技に参加できず、みんなに申し訳ないと思っている人たちも、全員が仲間のために全力を尽くすことで、一人一人が輝けると思います。そういう意味でも、今回の運動会は一人一人が100点を取ることができたと思います。私も大きな達成感を得ることができました。特に選抜リレーでの1位は感動の涙が溢れました。途中でバトンミスがあったのに誰も諦めずに走り切った結果、1位になることができました。どの団の皆さんも、本気で戦う姿から、勝ち負けを超えた感動を得ることができました。みんなで練習に励んだ日々。全力で戦った本番。涙を流した解散式。これらの全てがかけがえのない大切な思い出になりました。この団で行う運動会は最初で最後です。「全力に悔いなし」でできたことが、本当に嬉しいです。これほどまでに最高の運動会をつくってくれた皆さんにとても感謝しています。本当にありがとうございました。来年は後輩の皆さんが全力を尽くして新しい運動会を創造してください。 **内藤 麻緒**

色別対抗総合優勝　ピンク団長

自分の目標は、総合優勝をして誰一人も嫌な思いをしないような運動会を作ることでした。最初は団全体にまとまりがなく、応援団自身もどうすれば良いか分からなくなり不安なこともたくさんありました。しかし、練習を重ねていくうちに、どんどん団結力が増してきました。特に運動会3日前から、団全員が総合優勝を目指し、目の色が変わっていきました。特に、返事・移動のスピードが最初とは大きく変わりました。そして、ついに本番、予行では相手にならなかった綱引きも、まさかの大逆転の選抜リレーも、今までの成果が出て本当に嬉しかったです。今までやってきて良かったと思いました。

安部 大翔

マスゲーム最優秀賞　緑団マスゲーム長

私は1年生のときから「マスゲーム長」になりたいと強く思っていました。今年、自分がそこに立ったとき、たくさんの壁にぶつかりましたが、多くの人に支えられ、作品を創り上げることができました。たくさんの人に見ていただけるたった一回の機会を大切にして、素晴らしいパフォーマンスを披露してくれたみんなには、感謝しています。最優秀賞をいただくことができてとても嬉しかったです。本当にありがとうございました。 **中村 優奈**

各競技優勝団代表者

大縄跳び（1年生）　ピンク団

○私はピンク団が勝って嬉しいです。練習の時、自分は回し手をやってうまく回せなかったから「もう回し手をやめたい」と思ったことがたくさんありましたが、みんなが最後まで励ましてくれたから最後まで回せたと思います。1位を取れたのはみんなのお陰です。 **福田 美羽**

○自分は予行の時紫団に負け、本番で回し終わった後も、負けているのではないかと不安になりましたが、勝ててとても嬉しかったです。このクラスに貢献できて本当に嬉しかったです。**福田 睦月**

大縄跳び（2年生）　紫団 ○前日の練習では、全く跳べませんでした。当日は今までで一番跳べました。1年生、3年生の応援のお陰です。応援ありがとうございました。 **山口 大維斗**

大縄跳び（3年生）　紫団 ○最初は全くできず、本番で一番多く跳べたのは、練習の成果だと思います。短い時間でも練習する大切さを学びました。全員で跳んで全員で優勝できたことが、本当に嬉しかったです。 **朝日 聖也**

縦割り選抜リレー　ピンク団 ○私はこの選抜リレーを団全員の力で掴み取ったものだと思います。本番の一週間前に野口君が怪我をしてしまい、正直勝てないのではと思っていました。しかし、仲間みんなで一つになり、野口君に1位という宝物を絶対にプレゼントしてあげようと思い、全力で練習しました。予行では2位という悔しい結果に終わってしまいました。しかし、本番では「絶対に勝つ！」という思いで、みんながバトンを繋ぎました。1位を取ることは簡単ではなかったと思います。1位でバトンが回ってきたとき、「自分がこのまま1位を守る」という気持ちで全力で走りました。その結果、1位でゴールすることができました。バトンを繋いでくれたみんな、そして応援してくれた仲間や先生方に感謝したいです。本当にありがとうございました。 **牧野 亮冴**

綱引き男子　ピンク団 ○予行では紫団に30秒以内で負けてしまいました。僕たちは本番で負けたくないので、「打倒紫団！」で勝つために練習試合をしました。「絶対に勝てる」その気持ちだけで心が一つになり、本番も力が湧いてきたのだと思います。優勝できたのは、ピンク団全員の絆が深まったからだと思います。 **藤原 永逢**

綱引き女子　オレンジ団 ○団結力が必要な競技で優勝することができてとても嬉しいです。一緒に頑張ってくれたオレンジ団のみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。 **柿沼 弥空**

玉入れ　ピンク団 ○私たちピンク団が優勝できたのは、「あきらめない心」があったからだと思います。正直、私たちは予行練習で他の団の強さを知り、絶望しかけていました。それに多くのけが人が出てしまい、いつあきらめてもおかしくない状況でした。しかし、そんな中でも絶対に勝てるという希望を胸に闘志を燃やし、試行錯誤を重ねました。その結果、紫団と同点まで登り詰めることができました。「あきらめない心」がなかったら、このような結果はなかったと思います。今後は「あきらめない心」を忘れずに学校生活を送っていきたいです。 **小倉 隼人**

玉入れ　紫団 ○予行のときより点数を稼ぐことができて嬉しかったです。紫団の団結が非常にまとまった競技だと思いました。紫団の皆さん、一緒に頑張ってくれてありがとうございました。

森田 羽紅美